

首都大学東京 大学院課程教育

「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」

プログラムの名称：人文科学研究科 社会行動学専攻

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

（1）取得できる学位

① 社会学分野

博士前期課程：修士（社会学）

博士後期課程：博士（社会学）

② 社会人類学分野

博士前期課程：修士（社会人類学）

博士後期課程：博士（社会人類学）

③ 社会福祉学分野

博士前期課程：修士（社会福祉学）

博士後期課程：博士（社会福祉学）

（2）取得できる資格

① 修了することで取得できるもの

中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状をすでに取得しているものが、本学大学院博士前期課程を修了と同時に免許状の授与申請をすれば、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができる。

＜社会学分野、社会人類学分野＞

中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）

＜社会福祉学分野＞

高等学校教諭専修免許状（福祉）

② 修了することで受験資格を得られるもの

・該当なし

③ 別に定められた課程を修めることで取得できるもの

・該当なし

④ 修了することで一部の試験科目が免除になるもの

・該当なし

（3）育成する人材像

現代社会、とりわけ都市の高度情報ネットワーク社会という新たな状況の下で、産業、交通、文化の諸領域において、社会構造とその変動を歴史的・理論的に解明するとともに、他文化との比較研究を行い、国際化や少子高齢化にと

もなうさまざまな社会的課題に対応しうる政策的研究への期待と要請はますます高まっている。そのような情勢にあつて、現場のフィールドワークを中心とする調査研究とそれを裏付ける理論的・歴史的研究の融合・調和は今日急務の課題である。本専攻は博士前期課程、後期課程ともにそれらの課題に学際的に取り組む人材の養成を目標としている。修了後は大学・研究機関・民間企業・NGO等において研究者または高度な専門知識を持つ実務家として活躍しうる人材を養成する。

(4) プログラムの特色

急激に変化する現代社会や大都市において発生しているさまざまな現象や課題について、理論的かつ実践的に学ぶことができる。社会行動学専攻には、次の3つの分野がある。

社会学分野では博士前期課程、後期課程ともに、急激に変動する現代社会において、社会変動の動向やそこで生起する様々な社会問題に対し、理論的かつ実証的にアプローチすることができ、なおかつそうした知識を問題の解決や改善のために実践的に活用することのできる研究・教育者を養成することを第一の目的にしている。実際、東京都立大学に1955年に設置されて以来約半世紀に亘って、東京という大都市圏のみならず地方における大小の都市の社会変動と社会問題に対する実証的な調査研究を行なってきた歴史ももっている。また、本教室の都市社会学分野における位置は非常に大きく、研究者も多数輩出してきた。

社会人類学分野の教育目的は、東京都立大学における1953年の教室創立以来、一貫して日本における社会（文化）人類学の専門的教育研究者の育成である。それと共に近年では、アジア、アフリカ、オセアニアなどの地域の実情に関する豊富な知識を身につけ、開発・援助や国際交流などの分野で活躍する専門的職業人の養成にも力を注いでいる。このような目的達成のために、つぎのような教育目標を設定している。まず、博士前期課程では人類学一般の知識の向上とともに、将来のフィールドワークに備えて調査地域の選定、当該地域に関する広範な文献研究を勧め、その基礎に立って修士論文指導を行う。博士後期課程進学後は、1～2年にわたるフィールドワークを実行するために、当該地域の文献研究の深化、調査計画書の立案などの個別指導を行う。調査後の院生に対しては、収集資料の整理、学会誌への投稿論文、そして課程博士論文の提出を目標とした指導を行う。

社会福祉学分野では、経済のグローバル化や情報化、少子高齢社会の到来などによる時代の要請を強く受けている社会福祉学の各領域に関して、高度な専門知識・理解を身につけた研究・教育者養成を主眼とする。具体的には制度・理念、政策形成・評価、援助技術の開発・評価、調査方法等を講義・演習で学ぶ。併せて前期課程では研究・教育能力を有する専門的職業人の養成にも力を注いでいる。社会福祉学の学際性を鑑みて、社会福祉学にとどまらず、社会学、教育学、法律学、経済学、歴史学等の社会科学・人間科学の方法と視

点に基づき、文献研究の深化と調査計画書作成等の方法論を重視する指導を前期・後期課程を通して行う。

(5) 専門知識及び研究開発その他の能力

社会行動学専攻の修了生は、博士前期課程、後期課程ともに社会学分野・社会人類学分野・社会福祉学分野のいずれかを修了して、それぞれの分野固有の高度な知識・理解及び技術とともに、当該分野以外においても、普遍的に有効性を持つ能力を研究成果として獲得すべきである。

① 分野固有の知識・理解及び技術

社会学・社会人類学・社会福祉学の理論と方法論に関する専門的な知識・理解及び技術、人文社会科学全体に共通する幅広い教養としての知識・理解。

1. 社会学分野：社会学の基礎概念と諸理論を踏まえ、現代社会や都市の抱える諸問題を、サブカルチャー論、ジェンダー論、コミュニティ論、エスニシティ論、社会階層論など多様な視点から考察する高度な能力を獲得する。
2. 社会人類学分野：社会人類学の理論と方法論を踏まえ、世界各地の諸民族の環境・政治・経済・社会・文化の特色を理解し、それをグローバル世界の文脈において理解する能力を獲得する。生活様式や価値観の多様性や創造性を世界的な比較的視野からとらえ、過去・現在・未来にわたる人類のあり方を考察する高度な能力を獲得する。
3. 社会福祉学分野：経済のグローバリゼーションや情報化、少子高齢社会の到来などに伴う生活環境の変化をふまえて、社会福祉問題を総合的に把握し、それに対応する社会保障・社会福祉の制度・政策、あるいは調査・支援方法等に関して、高度な専門的知識・理解の獲得に努める。併せて高い倫理観を持って、社会に対し主体的に関与する自覚と論理的思考力を培う。

② 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解力。

(6) 修了要件

社会行動学専攻の修了要件は以下のとおりである。(本学在学生在が修了要件を確認する場合は、必ず入学年度の『履修案内・授業概要』を参照のこと)

首都大学東京人文科学研究科における履修及び学位取得に関する申し合わせ(『履修案内・授業概要』参照)のとおり、博士前期課程の学生は、2年間の在学期間を満了し、正規の授業を受け、博士前期課程専攻所定の授業科目について30単位以上を修得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。ただし、人文科学研究科教授会において必要と認めた場合は、上記30単位のうち、10単位以内に限り、人文科学研究科の他の専攻の授業又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

博士後期課程の学生は、3年間の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士後期課程専攻所定の授業科目を20単位以上修得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験をうけなければならない。

- ① 社会学分野（平成27年度以降の入学者の場合）
 1. 博士前期課程の必修科目は次のように定める。
 - (イ) 学外演習（10単位）
 - (ロ) 修士論文指導（2単位）
 2. 博士後期課程の必修科目は次のように定める。
 - (イ) 学外演習（4単位）
 - (ロ) 博士論文指導（2単位）
- ② 社会人類学分野（平成27年度以降の入学者の場合）
 1. 博士前期課程の必修科目は次のように定める。
 - (イ) 学外実習（10単位）
 - (ロ) 修士論文指導（2単位）
 2. 博士後期課程の必修科目は次のように定める。
 - (イ) 学外実習（10単位）
 - (ロ) 博士論文指導（2単位）
- ③ 社会福祉学分野（平成27年度以降の入学者の場合）
 1. 博士前期課程の必修科目は次のように定める。
 - (イ) 社会福祉学特別演習（2単位）
 - (ロ) 修士論文指導（2単位）
 2. 博士後期課程の必修科目は次のように定める。
 - (イ) 社会福祉学特別演習（2単位）
 - (ロ) 博士論文指導（2単位）

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

（1） 専門教育及び研究開発その他の能力確保のための科目編成・教授法・評価法等の基本的考え方

- ① 分野固有の知識・理解及び技術
社会学・社会人類学・社会福祉学の理論と方法論に関する専門的な知識・理解及び技術、人文社会科学全体に共通する幅広い教養としての知識・理解。
- ② 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力
コミュニケーション能力、情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解力。
そのために、分野ごとに次のように教育課程が編成されている。

1. 社会学分野

（イ） 博士前期課程

1年次には「社会調査法研究演習」「都市社会学研究演習」「社会問題研究演習」「社会学基礎理論研究演習」「社会問題研究」「都市社会学研究」「社会調査法研究」「社会学基礎理論研究」「学外演習」等の科目を履修することで、社会学の先行研究と今日の研究動向を学び、社会学の理論と方法論を総合的に学習することができる。

2年次には、修士論文執筆予定者を対象とする「修士論文指導」を履修する。修士論文の構想発表をおこなうこの演習科目では、全教員による添削指導を受けることができる。また、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、修士論文を執筆する。

（ロ） 博士後期課程

1年次には「社会調査法特論演習」「都市社会学特論演習」「社会問題特論演習」「社会学基礎理論特論演習」「社会問題特論」「都市社会学特論」「社会調査法特論」「社会学基礎理論特論」「学外演習」等の科目を履修することで、社会学における国内外の重要文献を精読し、社会学の専門研究者にもとめられる高度な専門知識・文献研究（レビュー）能力・調査研究能力を修得することができる。

2年次ならびに3年次には、博士論文執筆予定者を対象とする「博士論文指導」を履修する。学会誌投稿論文ならびに博士論文の構想発表をおこなうこの科目では、全教員による添削指導を受けることができる。指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、博士論文を執筆する。

2. 社会人類学分野

（イ） 博士前期課程

1年次には「社会人類学第一研究演習」「社会人類学第二研究演習」「文化人類学研究演習」「地域論研究演習」「民俗学研究演習」

「民族誌学」「民族誌学研究演習」などの演習科目を履修することで、社会人類学とその隣接分野（民俗学・地域研究）の先行研究と今日の研究動向を学び、社会人類学の理論と方法論を総合的に学習することができる。

2年次には、修士論文執筆予定者を対象とする演習科目「修士論文指導」（必修科目）を履修する。修士論文の構想発表をおこなうこの演習科目では、全教員による添削指導を受けることができる。また、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、修士論文を執筆する。

必修科目「学外実習」は最終年次に履修し単位を取得することが望ましい。履修申請した年度に各自が日本を含む世界の特定地域に赴き、長期の調査を実施する。実施した後、調査報告を作成し、その報告内容に対して、全教員の評価をもって単位認定する。

(ロ) 博士後期課程

1年次には「社会人類学第一特論演習」「社会人類学第二特論演習」文化人類学特論演習」「地域研究特論演習」「民俗学特論演習」「民族誌学特論」「民族誌学特論演習」などの演習科目では、社会人類学とその隣接分野（民俗学・地域研究）における国内外の重要文献の精読を通じて、社会人類学の専門研究者にもとめられる高度な専門知識と文献研究（レビュー）能力を修得することができる。

2年次ならびに3年次には、博士論文執筆予定者を対象とする演習科目「博士論文指導」（必修科目）を履修する。学会誌投稿論文ならびに博士論文の構想発表をおこなうこの演習科目では、全教員による添削指導を受けることができる。また、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導をふまえて、博士論文を執筆する。

必修科目「学外実習」は最終年次に履修し単位を取得することが望ましい。履修申請した年度に各自が日本を含む世界の特定地域に赴き、長期の調査を実施する。実施した後、調査報告を作成し、その報告内容に対して、全教員の評価をもって単位認定する。

3. 社会福祉学分野

(イ) 博士前期課程

1年次には社会福祉学の専門的知識・理解をふまえて、演習・研究会等で総合的問題思考力や情報活用能力を培う。社会福祉関連の多様な情報収集・分析をし、修士論文等に活用できる能力も育てる。国際的視野に立ち、異なる文化的背景を持つ人・地域への理解を深める機会提供も、留学生等の受講生の要望に即して個別指導で行う。他学部からの進学者には学部科目履修なども推奨する。

2年次には、修士論文執筆予定者を対象とする演習科目「社会福祉学特別演習」で、修士論文の構想発表を行う。この演習科目では、全教員による指導を受けることができる。併せて指導教員毎の「修士論文指導」によって、修士論文を執筆する。

(ロ) 博士後期課程

1年次に前期課程における研究を継続して論文を執筆し、さらに学会報告や学会誌への投稿などを目標に掲げて研究を進展させる。前期課程同様に、論理的思考力と情報活用力を伸ばす。また高い倫理観を持って、社会に対し主体的に関与する責任を自覚し、自ら解決すべき社会福祉問題・課題を見つけていく能動的学習姿勢を培う。

2年次には演習科目「社会福祉学特別演習」で論文報告が課せられる。これをふまえて、2年次後期から3年次には最終目標として博士学位論文を仕上げ、課程博士の学位を取得する姿勢を明確化する。後期課程では学会報告・論文投稿などを通しての研究者育成プログラムが基軸になる。

社会学分野の専門科目一覧

課程	科目名	学習・教育目標
博士前期課程	社会学基礎理論研究Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（社会学理論）
	社会学基礎理論研究Ⅱ	社会の理解力・解読力（社会学理論）
	社会学基礎理論研究演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（社会学理論）
	社会学基礎理論研究演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（社会学理論）
	都市社会学研究Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（都市社会）
	都市社会学研究Ⅱ	社会の理解力・解読力（都市社会）
	都市社会学研究演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（都市社会）
	都市社会学研究演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（都市社会）
	社会調査法研究Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（社会調査）
	社会調査法研究Ⅱ	社会の理解力・解読力（社会調査）
	社会調査法研究演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（社会調査）
	社会調査法研究演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（社会調査）
	社会問題研究Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（社会問題）
	社会問題研究Ⅱ	社会の理解力・解読力（社会問題）
	社会問題研究演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（社会問題）
	社会問題研究演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（社会問題）
	学外演習	能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚
修士論文指導	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決力、	
博士後期課程	社会学基礎理論特論Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（社会学理論）
	社会学基礎理論特論Ⅱ	社会の理解力・解読力（社会学理論）
	社会学基礎理論特論演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（社会学理論）
	社会学基礎理論特論演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（社会学理論）
	都市社会学特論Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（都市社会）
	都市社会学特論Ⅱ	社会の理解力・解読力（都市社会）
	都市社会学特論演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（都市社会）
	都市社会学特論演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（都市社会）
	社会調査法特論Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（社会調査）
	社会調査法特論Ⅱ	社会の理解力・解読力（社会調査）
	社会調査法特論演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（社会調査）

	社会調査法特論演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（社会調査）
	社会問題特論Ⅰ	情報処理能力・論理的理解力（社会問題）
	社会問題特論Ⅱ	社会の理解力・解読力（社会問題）
	社会問題特論演習Ⅰ	情報活用能力・論理的思考力（社会問題）
	社会問題特論演習Ⅱ	社会の記述力・総合的問題思考力（社会問題）
	学外演習	能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚
	博士論文指導	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決力、

社会人類学分野の専門科目一覧

課程	科目名	学習・教育目標	
博士前期課程	社会人類学第一研究演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（法人類学）	
	社会人類学第一研究演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東アフリカ）	
	社会人類学第二研究演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（アクチュアル人類学）	
	社会人類学第二研究演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東アフリカ、日本）	
	文化人類学研究演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（エスニック・アイデンティティ論、儀礼論）	
	文化人類学研究演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東南アジア大陸部）	
	地域論研究演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（先住民、島嶼部研究）	
	地域論研究演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（ニュージーランド、沖縄、ツバル、クック諸島）	
	民俗学研究演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（民俗学）	
	民俗学研究演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東アジア）	
	民族誌学研究演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（文化人類学）	
	民族誌学研究演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力	
	民族誌学A	異なる文化・社会への理解力（キューバ、スペイン）	
	民族誌学B	異なる文化・社会への理解力	
	民族誌学C	異なる文化・社会への理解力	
	修士論文指導	情報活用能力、能動的学習姿勢、コミュニケーション能力、総合的問題思考力（修士論文作成指導を主軸とする）	
	学外実習	能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚	
	博士後期課程	社会人類学第一特論演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（法人類学）
		社会人類学第一特論演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東アフリカ）
社会人類学第二特論演習Ⅰ		情報活用能力、論理的思考力（アクチュアル人類学）	

社会人類学第二特論演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東アフリカ、日本）
文化人類学特論演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（エスニック・アイデンティティ論、儀礼論）
文化人類学特論演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東南アジア大陸部）
地域研究特論演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（(先住民、島嶼部研究)）
地域研究特論演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（ニュージーランド、沖縄、ツバル、クック諸島）
民俗学特論演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（民俗学）
民俗学特論演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力（東アジア）
民族誌学特論演習Ⅰ	情報活用能力、論理的思考力（文化人類学）
民族誌学特論演習Ⅱ	異なる文化・社会への理解力
民族誌学特論A	異なる文化・社会への理解力（キューバ、スペイン）
民族誌学特論B	異なる文化・社会への理解力
民族誌学特論C	異なる文化・社会への理解力
博士論文指導	情報活用能力、能動的学習姿勢、コミュニケーション能力、総合的問題思考力（博士論文作成指導を主軸とする）
学外実習	能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚

社会福祉学分野の専門科目

課程	科目名	学習・教育目標	
博士前期課程	修士論文指導	修士論文作成指導による論理的思考力および情報活用能力・総合的問題思考力の育成	
	社会福祉学特別演習	研究報告・論文作成指導による論理的思考力と倫理的・社会的責任の自覚等の育成	
	社会福祉理論研究Ⅰ		総合的問題思考力（障害者政策・運動の構造把握）
			論理的思考力
	社会福祉理論研究Ⅱ		論理的思考力(歴史アプローチによる洞察力育成)
			異なる文化・社会への理解(社会政策論・福祉国家論の比較)
	社会福祉援助論研究Ⅰ	情報活用能力、総合的問題思考力(家族問題・貧困等へのソーシャルワーク)	
	社会福祉援助論研究Ⅱ	コミュニケーション能力（家族療法の理論・アプローチの基本修得）	
	社会福祉制度論研究Ⅰ		倫理観・社会的責任の自覚（権利としての社会福祉についての主体的考察）
			論理的思考力(貧困・低所得問題と社会福祉・社会保障制度)
社会福祉制度論研究Ⅱ		論理的思考力(法制度の実証的な分析力)	
		総合的問題思考力(生活問題と制度との関係を学ぶ)	
社会福祉問題論研究Ⅰ	情報活用能力		

		論理的思考力（実践ニーズの把握と実践方法）
	社会福祉問題論研究Ⅱ	情報活用能力
		論理的思考力(国際比較による洞察力育成)
博士 後期 課程	博士論文指導	博士学位論文作成指導を主軸とする論理的思考力や能動的学習姿勢等の促進
	社会福祉学特別演習	研究報告・論文作成指導を主軸とする論理的思考力や能動的学習姿勢等の促進
	社会福祉理論特論Ⅰ	総合的問題思考力（障害者政策・運動の構造把握）
		論理的思考力
	社会福祉理論特論Ⅱ	論理的思考力(歴史アプローチによる洞察力育成)
		異なる文化・社会への理解(社会政策論・福祉国家論の比較)
	社会福祉援助論特論Ⅰ	コミュニケーション能力（家族療法の理論・アプローチの基本修得）
	社会福祉援助論特論Ⅱ	総合的問題思考力(家族療法の各領域での応用と実践研究事例を学ぶ)
	社会福祉制度論特論Ⅰ	倫理観・社会的責任の自覚（権利としての社会福祉についての主体的考察）
		論理的思考力(貧困・低所得問題と社会福祉・社会保障制度)
	社会福祉制度論特論Ⅱ	論理的思考力(法制度の実証的な分析力)
		総合的問題思考力(生活問題と制度との関係を学ぶ)
	社会福祉問題論特論Ⅰ	情報活用能力、総合的問題思考力(家族問題・貧困等から)
論理的思考力（実践ニーズの把握と実践方法）		
社会福祉問題論特論Ⅱ	情報活用能力	
	論理的思考力(国際比較による洞察力育成)	